

第21回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会 および大会運営事務局の変遷についての報告

中川 実

1. はじめに

岐阜地域留学生交流推進協議会主催の岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会は、岐阜県内の教育機関で2001（平成13）年度より、毎年1回実施しており、今回で21回目である。教育機関とは、大学、大学院、短期大学、高等専門学校、研究所、日本語教育施設、専修学校である（以下所属機関とする）。

本稿では、2022（令和4）年度第21回岐阜協立大学で行われた日本語弁論大会（以下岐阜県弁論大会とする）の概要と、中日本自動車短期大学（以下本学とする）の取り組み姿勢を報告し、併せて参加者の発表内容を紹介する。また大会運営事務局の担当校の変遷について報告とし、今後の活動の一助とする。

2. 第21回の大会概要

2.1 本学の取り組み

岐阜県弁論大会は、岐阜県内の所属機関に在学する外国人留学生の日本語学習意欲の喚起及び日本語の表現能力の向上を目的として行っている。

本学では日本語弁論大会を毎年7月下旬に開催しており、この大会の発表者は、1年生クラスを中心に6から7名程度選抜して決定し、原稿を提出させている。また発表者が自信をもって発表できるよう、空き時間や放課後を利用して何度も練習を行っている。

第21回岐阜県弁論大会が、11月26日にある旨が7月上旬に実施要領として発表された。本学での日本語弁論大会で受賞した留学生上位2名に岐阜県弁論大会に参加してみないかと打診してみるところ、発表してみたいと意思表示があったので、夏休み以降スピーチ原稿を提出させ、参加申し込みを行った。

この2名の学生には、発表日までにスピーチ原稿を暗記させて、本番に向けた練習を繰り返した。また、時節柄、体調管理を促しながら大会当日を迎えた。

2.2 大会の概要

第21回大会の会場は、岐阜協立大学北方キャンパス内講堂（7号館）で実施された。応募資格

は、母国語が日本語以外の留学生で岐阜県内の所属機関に在籍中の留学生（研究生，別科性，科目等履修生を含む）である。発表テーマは，自由であり布教・営利に関するものは不可とし，内容は未発表のものに限る。発表時間は1人10分程度で，スピーチ中パネル等の使用は不可とする。スピーチ終了後，質疑応答を受ける。

所属機関，テーマ及び参加人数は，表1に示すとおりで所属機関6校8か国10名が本戦に挑んだ。

表1. 所属機関，出身国，テーマ，参加人数

所属機関	出身国	テーマ	人数
岐阜協立大学	バングラデシュ	「人生の意味を探しましょう」	2
	ベトナム	「幸せですか？」	
岐阜大学	中国	「断捨離で生活を整理」	1
国際たくみアカデミー	スリランカ	「私の小さな世界の天使」	2
	ミャンマー	「日本に来る前と来た後の大変なこと」	
中部学院大学	インドネシア	「コンフォートゾーンを抜け出し得られたこと」	1
朝日大学	ウクライナ	「日本のおもしろいこと，すばらしいこと」	2
	ドイツ	「レジ袋について」	
中日本自動車短期大学	スリランカ	「悲しみを強さに変えて一夢をかなえるまであきらめずに生きていこうー」	2
	ベトナム	「スマホに頼りすぎる現代人」	

今期の開催については，岐阜県「コロナ社会を生き抜く行動指針」のガイドラインに従って，感染防止対策徹底のため，会場内は，扇形の階段形式の座席で約1,240席程ある大きな会場を使用した。大会当日のタイムスケジュールは，13：30大会開催挨拶を大会実行委員長の岐阜協立大学学長，主催者岐阜県地域留学生交流推進協議会会長の岐阜大学学長の挨拶に続き，来賓・審査委員の紹介，発表者への諸注意等を司会者から説明を受けた後，発表を開始（質疑応答を含む）した。前半5名，休憩を挟み後半5名が発表した。その後審査が行われ，16:00から表彰式を行った。

審査委員長より審査発表，表彰状を受けと取った。最優秀賞1名，優秀賞3名が発表され，審査委員長より，講評があった。閉会の挨拶を岐阜協立大学副学長より頂き，記念撮影後，17:00に終了解散した。

2.3 受賞結果

第21回大会の受賞結果は，中部学院大学（インドネシア）が最優秀賞で，優秀賞は，国際たくみアカデミー（スリランカ），朝日大学（ドイツ），そして本学（ベトナム）の3名が受賞した。

2.4 本学の発表者

以下に本学発表者と発表内容を紹介する。

ゲン・ゴック・タンさん（ベトナム）写真1は、優秀賞を受賞した。現代人の問題視すべき内容を自分の経験談から気持ちを表現して問いかける方法で堂々と安定した口調で、わかりやすく発表した。発表テーマは、「スマホに頼りすぎる現代人」と題して現代人のスマートフォンの便利さと人との繋がりについて考えや気が付いた点について発表した。



写真1

【発表原稿】

『近年、スマートフォンが普及し、電話はもちろんネットワークを介して動画やゲームをどこでもできるようになりました。さらに、スマホで簡単に情報を手に入れることができるようになったため、例えば、友達の誕生日のお祝いをするために、ウェブでお祝いの文をコピーしたり、メッセージアプリに設けられているアイコンを使ったりすることで、お祝メッセージをさっと作り、送ったりすることが容易になりました。しかし、スマホは便利な反面、色々な問題が発生しました。ネットを長く利用していたため、仕事や勉強などがおろそかになることもあるし、他にやらなければならないことがあっても、まずラインやフェースブックをチェックすることもあります。多分皆さんもご経験があると思いますが、友達と一緒に遊びに行ったとき、楽しく話す代わりに皆それぞれじっとスマホを見ている、ということもよくありますね。私も例外ではなくそうでした。そんな便利なスマホですが、他人とのコミュニケーションに関連して、私はこんな経験をしました。

私は留学生として日本に来る前にベトナムで日本人と一緒に仕事をしていたのですが、その日本人が帰国する際に、私はその人からメッセージカードをもらいました。そのメッセージは、「今までいろいろとありがとう」と書かれていて、その人の私に対する感謝の気持ちが伝わってきましたが、それを読んでいる際に、ふと高校生のときの、あるできごとを思い出しました。

私が高校3年生のある日、教室に入って自分の席に座ったら、誰かが忘れてしまったノートが、その机の引き出しから見つかりました。そのノートを開くと字も綺麗に、そしてきちんと書かれたノートでした。それを見て、私はなぜか気になって小さい紙に「字が綺麗ですね、でもノートを忘れてますよ」というメッセージを書いて、ノートの中に挟んで机の引き出しに戻しておきました。実は私の高校では、高校3年生と1年生が同じ教室を使用していました。3年生が午前中に使って、1年生が午後使っていたので、そのノートを見たら、1年生の女の子のノートだということが解りました。私とその彼女にメッセージを残したのは、別にその人からの返事を期待

していたわけではなくただ、その時、なんとなく気になって、そのメッセージを書き残したにすぎませんでした。でも次の日、学校に来て教室の机に座った時、思わぬことに、小さい紙きれを引き出しの中に見つけました。彼女からの返事でした。私はワクワクしながらメッセージを読みました。すると、そこには、「ノートは忘れていたんじゃなくて、先輩のことが気になっていたから、わざとしました。」と書かれていました。そのメッセージをもらってからというもの毎日、その方法でお互いにコミュニケーションを取るようになりました。その後その彼女と付き合うことになったのですが、それまで、毎日ワクワクする気持ちで学校に来ていました。ただ、実のところその後彼女に確認すると、「先輩のことが気になっていた」というのはその時は冗談だったそうです。こんな経験と比べて、現在スマホでメッセージをやり取りすると、すぐ返事が来るということは便利で当たり前なのですが、あの時のようなワクワクする気持ちを味わうことは、なかなかできないのではないかと思います。ですから、例えばスマホで誕生日のお祝いを送る代わりに、直接会って、相手にお祝いのメッセージを言うとか、手書きのお祝いメッセージを送ったら、相手には自分の気持ちがよく通じるのではないのでしょうか。私は自分の経験からそのように強く感じます。

そんなことがあって以来、自分でもスマホを使う時間を減らそうと思って、夜家に帰ったら一切スマホを触らないことが多くなりました。特に寝る前にスマホを見ると、いつの間にか2、3時間が経ってしまうので、家族とテレビを見るとか、家族と話すことが増えました。そして休日には、時間があれば外でみんなとローラースケートをやったりしたこともあり穏やかな気持ちにもなってきました。ですから、私たちの限りある時間を、無駄にスマホに頼らず、そのかわり、他の人との直接的なコミュニケーションの時間に使えば、毎日健康的で、もっと楽しく過ごせるのではないかと考えています。皆さんはどう思いますか。』

次に、2人目のウッパラ・エランダティさん(スリランカ)写真2は、惜しくも賞を逃したが、将来の夢を叶え日本から学び得たものを母国に広めていくため、自身の子どもの頃の家族と繋がりの中で、何ができるかを考え、日本を見習いスリランカの発展に貢献できるように努力する立派な発表だった。発表テーマは、「悲しみを強さに変えて一夢をかなえるまであきらめずに生きて行こう」と題して発表した。



写真2

【発表原稿】

『今日は私が日本へ来て学んだ、「どんな大変なことがあっても諦めずに、自分自身で生きてい

くこと」,そして「スリランカの子供たちの笑顔を見たい」という私の将来の夢について発表したいと思います。私が子供の時から、母はイスラエルという国へ出稼ぎで働きに行っていたので、祖母が私の母として私を育ててくれました。初めて母がイスラエルへ行ってしまった時、寂しくてたまらなかったけれど、祖母は私のことを一番に世話してくれたので、私は祖母をととても愛していました。しかしある日、急に祖母は病気になってそのまま亡くなってしまったのです。今もそのことを思い出すと悲しくてたまらないです。私の通っていた中学校は遠い場所にあったので、その後は、母も祖母もない学校の寮に住み、学校に通わなければなりません。私はその時、「まだ11歳なのに、なぜ一人で住まないといけなの?」と、いつも考えていました。学校の他の学生は両親と一緒に住んでいるのに、私はたった一人で暮らしていることがとても悲しかったです。しかしだんだん成長し、ものごとが理解できるようになると、母はうちにお金がなかったのでイスラエルへ行ったと解るようになりました。その時からいつか自分で頑張ってお金を貯金しよう、そして世界でこれまで生まれていないような個性的な女性になりたいと思うようにもなりました。そのころ私の兄は日本に留学生としていたので、私も高校を卒業し日本に留学することを決めました。そのことに対して両親は応援してくれました。それがどんなに大変なことでも家族は私を信じてくれました。もし家族がいなかったら日本に来る夢を叶えられなかったと思うので今は本当に家族に感謝しています。

こうして、私は日本へ来ました。こんな子供のころの経験を、どのように日本での留学生活に活かし、自分の夢を描くようになったのかをお話したいと思います。

日本人はみんなスリランカ人よりお金があると思います。だから私の子供のころのような生活を送った子供は少ないでしょう。私は日本に来てコンビニで働いている時、両親と子供が楽しそうに買い物をする姿を見て、つい私の子供のころを思い出して悲しくなります。スリランカでは経済的な問題で、私のように寮に住み学校に通える学生は少なく、ある意味私は恵まれた環境ではあったのですが、一人で暮らすということは子供にとって本当に寂しくてたまらない経験でした。ですから日本のように両親と一緒に暮らして近所の学校に通えたらとてもいいと思います。それは遠くのいい学校に通うことよりとても大切だと思います。私のような寂しい思いをする子供がいなくなるように、私はまず日本で一生懸命勉強し、そしていつか日本で頑張ってお金を貯金した後、国へ帰って悲しい生活をしている子供たち、例えば食べ物がなくて困っている子供たちを私の子供として育ててあげたいです。そのような子供たちのために立派な施設を立ち上げて、彼らの笑顔をみるため献身的に働いていきたい、それが私の将来の夢です。

ただ、スリランカにはこういった経済的な問題以外にも、いろいろな問題があります。例えば「時間」です。私はスリランカにいる時、時間はあまり守りませんでした。私に限らずスリランカ人はみんなそのようだと思います。というのも、スリランカには日本のような厳しいルールや法律がないからです。私が初めて日本に来てびっくりしたことは、本人はみんな時間をしっかり守ることでした。ある日、日本語学校に2分ぐらい遅れて行ったら、先生に謝罪することなしに

教室に入ることができませんでした。またアルバイトへ行く時電車に1分遅れて乗れなくて、遅刻してしまって店長に叱られてしまいました。その日から私は時間を守ることを第一に心掛けるようになりました。

ですから、時間を守るということの大切さもスリランカの子供たちに伝えたいです。またスリランカでは学生はアルバイトをしません。大学や専門など卒業し就職するまでも両親は育ててくれます。そのため日本に来たばかりの時一人で自立して生活することが、本当に大変でした。辛くて、「もう我慢できない、国へ帰りたい」と思った時が沢山ありました。でも子供のころを思い出して「今私は頑張らないと将来も悲しい生活がまっているかもしれない。今あきらめたら将来はどうなるの?」と、どんなに大変でも未来のため頑張ろうと思い直し、一生懸命働くようになりました。小学校時代のあの日の記憶から、どんな問題があってもあきらめないで生きていこうと決めた、私の決意があったからです。

このように、若いときから自立して頑張っていこうと努力することの大切さも、私自身の経験から子供たちに伝えたいことです。私はこういった夢をかなえるために、まず日本でしっかりと働きたいと思いました。そして、もともと興味があった自動車を学べる中日本自動車短期大学に入学しようとした時「自動車の仕事は女性には向いていないし、就職するのも難しい」と周りから言われて不安にもなりましたが、日本語学校の先生方や国の母からも励まされて、「誰がどんなこと言っても私は中日本自動車短期大学入って頑張ろう」という強い気持ちで入学し、今はとても楽しく学んでいます。日本に留学して学んだおかげで私は今、子どものころの悲しみを強さに変えて、前よりとても行動力がある人間になっていると感じています。将来の夢を叶えるためには、まだまだやることがたくさんありますが、スリランカの実現に貢献できるように努力していきたいです。スリランカが、日本のような世界でもより良い国になることが私の一番大きな夢です。』

二人とも堂々と自信をもって発表に臨み、会場からは高い評価を受けた。今後の人生の糧にできたのではないだろうか。

3. 大会運営事務局の変遷

大会事務局は、表2に示すように、2001（平成13）年度第1回岐阜女子大学から始まり、2005（平成17）年度第5回は本学が担当校として、運営した実績がある。2013（平成25）年度は、開催されませんでした。第15回から第18回までは、岐阜大学が連続担当し運営した。その後、2020（令和2）年度第19回から21回までの間は、ローテーションを繰り返し、大会事務局を希望する大学や参加の頻度が多くなった大学には、ローテーションに加わる方向で、各所属機関の担当から幹事校（主）と副幹事校（副）を決めて交代しながら運営した。

表2. 第1回から第21回までの大会事務局の変遷

回数	年 度	大 会 事 務 局	備 考
1	2001 (平成13)	岐阜女子大学	
2	2002 (平成14)	岐阜経済大学	
3	2003 (平成15)	朝日大学	
4	2004 (平成16)	中京学院大学中京短期大学	
5	2005 (平成17)	中日本自動車短期大学	
6	2006 (平成18)	岐阜工業高等専門学校	
7	2007 (平成19)	中部学院大学	
8	2008 (平成20)	岐阜聖徳学園大学	
9	2009 (平成21)	東海学院大学東海学院短期大学	
10	2010 (平成22)	岐阜大学	
11	2011 (平成23)	名城大学都市情報学部	
12	2012 (平成24)	岐阜経済大学	
13	2014 (平成26)	中部学院大学, 岐阜大学	
14	2015 (平成27)	中部学院大学	
15	2016 (平成28)	岐阜大学	
16	2017 (平成29)	岐阜大学	
17	2018 (平成30)	岐阜大学	
18	2019 (令和1)	岐阜大学	
19	2020 (令和2)	(主) 岐阜大学, (副) 中部学院大学	人数制限にて対面実施
20	2021 (令和3)	(主) 中部学院大学, (副) 岐阜協立大学	同上
21	2022 (令和4)	(主) 岐阜協立大学, (副) 中日本自動車短期大学	岐阜県感染防止ガイドラインに沿って開催

2023 (令和5) 年度第22回からは、大会運営の輪番制について議論を交わして、表3で示す方向で行うことが、議決された。

表3. 第22回から第26回までの大会事務局担当校

回数	年 度	大 会 事 務 局
22	2023 (令和5)	(主) 中日本自動車短期大学, (副) 岐阜大学
23	2024 (令和6)	(主) 岐阜大学, (副) 中部学院大学
24	2025 (令和7)	(主) 中部学院大学, (副) 岐阜協立大学
25	2026 (令和8)	(主) 岐阜協立大学, (副) 中日本自動車短期大学
26	2027 (令和9)	(主) 中日本自動車短期大学, (副) 岐阜大学

4. お わ り に

以上のように岐阜県弁論大会は、21回にわたって所属機関の大会事務局で運営されてきており、数多くの留学生が発表してきた。勉学に励む留学生にとっては、大切な発表の場として価値のある大会の一つとなっている。

本学は、岐阜県の所属機関の中でも早く1969年より多くの留学生を受け入れ教育を行ってきた短期大学であり、アジアを中心に14カ国以上にのぼる国や地域から留学生が学びに来ている。留学生が今後も日本をよく理解し、日本と母国の友好を深め専門分野の学業だけではなく、日本語能力のレベルアップに努められるように、環境作りを強化していきたい。

次回22回は、本学が大会事務局（主）担当校となることが決まっている。各所属機関からの様々な意見や改善案を参考に、第22回実施計画案を作成し、大会運営がスムーズに実施できるように本学全体で年間行事の一つとしてとして捉えて取り組んでいきたいと考えている。

本学日本語弁論大会を運営してきた留学生センターの各先生方にご指導・ご協力を受けたことについて、深く感謝したい。

最後に、この岐阜県弁論大会を運営されてきた岐阜県内所属機関の方々の熱意ある取り組みに深く感謝と敬意を表し、大会の発展に貢献できれば幸いである。